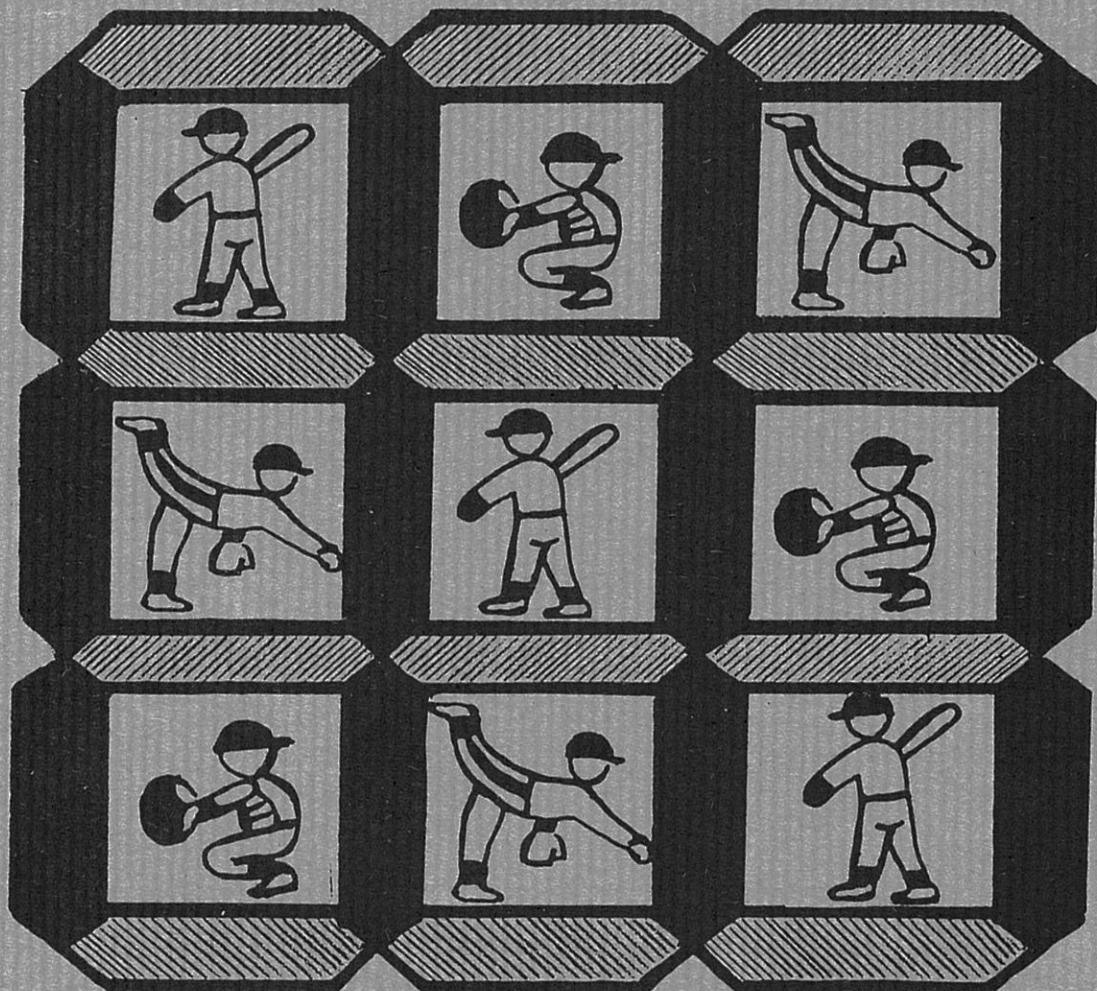


《20周年記念誌》

富丘ガツツ

富丘少年野球



創立20周年記念事業実行委員会

20周年記念事業を祝するにあたって = お い た ち =

富丘少年野球部

富丘少年野球部は、富丘町内会が昭和44年に青少年健全育成の一環として活動を奨励・推進し、今では千歳市内外にまで広範囲・活発な活動を行なっています。又、部員の家族も子供達の野球に対する情熱と、これを支援する町内会の熱意によって、年々理解を持つ家族がふえ野球部家族会が組織されるにいたり子供達は町内会・家族会の暖かい理解・協力のもと、存分な活動ができるようになりました。

富丘少年野球のねらい

野球を通じて

- (1) 健康な身体をつくる。
- (2) 頑張り通す、つよい精神力を身につける。
- (3) 友達と仲良く（和）、力を合わせる（協力）について学ぶ。
- (4) 千歳及び他地区の各チームと交流（試合）をおこない広い見識を学ぶ。
- (5) 勝つよろこび、負けるくやしさを知る。
- (6) 少年時代の思い出とする。
- (7) 家族相互の親睦を図る。



富丘少年野球旗（昭和54年作成）



“栄光”千歳市軟式野球連盟表彰

20周年記念事業を迎えるにあたって

富丘町内会少年野球チーム「富丘ガツ」

創立20周年記念事業実行委員会

富丘町内会少年野球チーム
20周年記念事業実行委員会

委員長 彦坂忠人

我が子に対する期待はいつの時代であっても、限りなく大きく、美しく、それはすべての親子に共通するものであり、その期待と子供達の成長が常に自然に温かい中で醸成され、多くの逞しい子供達が巣立っていく光景は、子を持つ親にとって、最高の喜びであり、感激であります。

“富丘ガツ”が昭和44年に活動を開始して以来、20年の歴史を数え、その間多くの子供達が汗と涙と喜びの中で技術を磨き、野球を通して心身を鍛え、立派に成長しています。

それは偏方に指導者皆様の強靭な姿勢と我が子に優る愛情の賜と深く敬意を表するものであります。

“富丘ガツ”的20年の歴史と、このすばらしい野球チームに参加した親子が一同に会し、再度あの感概を新たにし、そして、お世話を頂いた関係者に感謝を申し上げ、今後も更にすばらしい“ガツ”であることを希望し、今までに対する感謝と今後の期待をこめて本20周年記念事業が取り行われることを確認し、最後に、本事業に対して多くの方のご尽力とご協力を頂いたことに厚くお礼を申し上げ、実行委員会を代表してご挨拶とさせて頂きます。



祝 辞



富丘連合町内会

会長 正森辰藏

富丘ガツが生まれてここに20周年を迎えられることを心からお祝い申し上げます。

思えば20年前千歳市に町連協野球大会が発足し、それを記念して市中パレードが華やかに開催され原監督がチームを連れて参加してくれましたが、ユニホームがないのは富丘チームだけで大変恥かしい思いをした、今度の大会で1回戦に勝ったら町内会では非ユニホームを作ってくれとの要請を受け頭の痛い思いをしておりましたが、いざ幕があくと1回戦を問題とせずあれよあれよのうちにベスト8に勝進みました。早速役員会で成果報告をし提案したところ、全員一致拍手で承認された時は原さんも私も溢れでる涙を押さえることができなかった一幕もありましたが、それからのガツは連戦連勝、我々の期待に充分こたえてくれました。時は流れ今その少年達は中学、高校に進学、更には立派な社会人となって各方面で活躍してくれています。又その間監督、コーチ陣、家族会の方々も交代されておりますが、いつまでも選手達のチームワークを大切に厳しい中にもやしさをもって暖かく包みこんで育てて下さった、又育てて下さる皆様方に心から感謝申し上げ益々のご健勝をお祈り致し、思い出の一端をご披露してお祝いの言葉といたします。



結成20周年に寄せて

初代監督 原 照雄
(大阪府堺市在住)

富丘少年野球部後援会及び家族会の皆様、おなつかしゅうございます。

このたび、結成20周年をお迎えになり記念行事を挙行されますとのこと、心からお喜びを申し上げます。

苦節20年!!あれからもう20年なるのかなあ!と感無量の想いで当時のことが偲ばれます。富丘は千歳の新興住宅地で小学生以下の子供達が多く、町内会でもなんとか青少年部活動を活発なものにしたいとお考えのようでした。当時の正森会長、橋本会計部長に熱心にくどかれ、全面的支援協力の約束で青少年部長をお受けしました。

部活動それは先ず「富丘」の胸マークのユニホームを着た少年野球の子供達が町内、市内をかっ歩する、これの実現から始めようと町内広報で呼びかけ、なんとか結成に至ったものです。ところが集った子供達はキャッチボールは出来ても野球は知らない子供ばかり、現在のコミュニティーセンターが建つ前の草と凸凹グラウンドで野球練習と言うよりも「子供の守り」と見る人の目に映ったものです。翌年始めて白のユニホームを作って見たものの、試合に行っても弱いこと弱いこと、毎回大差のコールド負けの連続でした。

当時はクラブ野球部が多く、町内チームは陰の薄いものでした。私の活動に協力する人もなく応援する家族もなく、全員自転車で日の出、自由ヶ丘、市内各所を廻って胸を借りての練習の毎日でした。子供達にアメを配り帰路につく……それでも子供達は楽しそうでした。

そして私の役員2年間中断のあと、再び正森会長と共に再任され、今度はグリーンのユニホームで再スタート、そのころから市内各地に町内会チームが増えはじめ町連協にクラブを除く町内対抗戦開催をと懇願を続け、これが実現するとともに年々クラブチームは衰退していき、町内野球部が繁栄の一途をたどることになりました。富丘野球部も協力者第1人者森さん、佐藤さんの出現とともに名実ともに充実したものとなり「千歳の王者、富丘ガッツ」として実力をつけるにいたりました。

恵庭、広島、札幌、苫小牧、室蘭と近隣市町村を転戦して廻る富丘野球部はまさに「千歳の代表チーム」として勇名をはせるまでになりました。応援にかけつけ声を枯らして声援してくださいました多くの家族のみなさんの声が今でもこの耳に残っています。

皆様方とお別れして大阪で暮らすことになって早や5年余り、20年近く暮らした富丘は私にとって1日も忘れられない第2の故郷です。

野球部結成20年を支えてくださった、多くの家族会、役員の皆様そして汗と泥にまみれて想い出を胸に巣立った部員のみなさん方の御苦労に対して謝意を申し上げ重ねて祝賀のお寿を申し上げます。

今後もますます野球部が充実発展し家族会の皆様方が御健勝でありますよう祈っています。



昭和44年 原監督を囲んで 6年生は現在32才

富丘ガツ創立20周年

おめでとうございます

二代監督 佐藤末輝

昭和44年、当時の正森町内会長と橋本会計部長が「何か子供達にのびのびと町内会のバックアップでしてあげることはないか」と相談され、それでは少年野球チームを作ってはどうかということになり、原さんに白羽の矢が当ったそうです。

原さんは条件として「子供達にユニホームを作ってくれたらやりましょう」ということになり、町内会に少年野球チームが結成されたと聞いております。それから20年ほんとうにおめでとうございます。

私がこの富丘3丁目に転居して2年目、昭和51年の春、息子が3年生のとき「お父さん、僕富丘ガツに入ったんだ。監督が入っていいって言ったんだ」と喜んで帰って来ました。私は富丘ガツって何んだろう。何のことを言っているのかわかりませんでした。聞いているうちに少年野球チームで原さんとおっしゃる監督と森さんとおっしゃるコーチの方がいることを知り、少年野球チームにもプロ野球のように監督やコーチがいるのかなとびっくりしたものです。

そのうち機会があって息子の後について見に行きましたら、今のコミセンが建つ前の空地に金網のバックネットが作ってあり、そこに子供達が集まっていました。間もなく大人の方が二人来られて練習が始まりました。

この方達が原監督と森コーチだったのです。昭和52年に道路沿いにバックネットを広げなければ危険ということで佐藤さん（征史君のお父さん）にお手伝いをいただき網のバックネットを広げました。昭和53年にはコミセンが建設されるので金網のバックネットを撤去しなければならず、思いあぐねて今野さん（今野工業、泰広君のお父さん）にお願いしユニックで撤去していただいたりしたことが想い出されます。昭和55年から家族会が発足し、町内会とあわせ子供達は益々活躍出来るようになりました。

夏は浜益・有珠の海水浴、冬は登別プリンスホテルの温泉旅行、卒業時には6年生を送る会など、試合で勝てば大喜びしてジンギスカン大会、負ければみんなで涙して悔しがったり子供達と一緒に過ごした日々が想い出されます。富丘ガツ20周年の式にあたって想い出の一つを述べさせていただきましたが、この式典を企画、実行された現在の家族会のかたがた、又ここまで引き継いでこられた現在の斎藤監督、少年野球を理解されバックアップをつづけられた町内会の方々に心から敬意を表するとともに、富丘ガツの益々の御発展を祈念致します。





千歳富丘ガツ20年の節目に立って！

三代監督 斎藤 静司

「お父さん！僕ガツに入りたいから一緒にきて！」と仕事から帰って来たばかりの私に息子が言って来たのが私がガツにかかりを持つきっかけでした。

それ以来約10年。その当時のガツは強いチームで何かの大会の抽選会などにキャプテン他何人の子供達を連れて会場に入ると他のチームの子供達が袖を突っつき「ガツだ、ガツだ」とさやきながら一斉に我々の方を見てたものでした。

コーチを始め指導者の皆さんとの熱心な事、家族の方々の応援が強いチームを作る基礎になっていたようでもまたその事が他のチームの羨望の的にもなっていた様です。以来富丘ガツは家族と指導者が熱心だと評判になりました。

私が監督となったのはごく気軽な気持でただ「好きだから楽しそうだから」と言う単純な事でした。その年の初めての大会で2回戦までは順当に勝ち進み3回戦、これに勝てば支部大会に出場出来ると言う大事な試合です。7回表まで6対0とリードところがその裏7点取られてさよならで負けてしまいました。監督の采配ミスです。コーチや家族の方が慰めてくれましたが私にとってはすごいショックでその夜は眠れませんでした。でもこの事がきっかけで「子供の指導育成」について色々勉強する事になりました。専門教育を受けた事のない私にはまだ「子供の指導育成」というものが解りません。自分でこれで良いと思っても、あんがい子供達の心を傷つけている事が沢山あったと思います。しかし毎年何人かの子供達を送り出してその子供達がOBとしてグラウンドに来たり、あるいは町の中で会ったりして声をかけて来てくれるのが今一番嬉しく、また元気でいるか、今何をしているのか等も気にもなります。その子供達がガツにいた時よりも遥かに大きくなり顔も態度もぐっと大人になって私の前にいるとついガツにいた時の事を思い出し、あの時こうしてやれば良かった、ああすれば良かったと後悔させられます。

今ガツ20年、その半分約10年ガツに関わって来た者として振り返ってみると、一番の功労者はガツを作った原さんや佐藤さんの努力であって、そして毎年無理をいって協力していただいたコーチ指導者の皆さんや家族会の皆さん、また応援してくださった町内会正森会長さん始め役員の皆さんのが20年を祝う事が出来たのだと思います。私は先輩の築いたレールの上をただはしって来ただけです。私も微力ながら今後更に30年、40年と続き、発展していくよう皆さんと一緒に協力ていきたいと思います。



ガッツの思い出

斎 普郎先生

初代コーチ

森

満

千歳市においても少年野球熱が盛り上がってきた昭和44年関係者の協力により開催された第1回大会では、町内会あるいはクラブ単位で結成されたチームは30以上にものぼり、それは大きな大会であったと記憶しております。

野球についてはヘタの横好きな私も、第1回大会から参加させていただき緑町グリーンズから始まり東雲町、そして昭和50年富丘3丁目に転居したのを機会に、51年春からチーム設立者の原部長、佐藤監督のもと勇気と根性そして常に挑戦の気持で進む「富丘ガッツ」の仲間入りをしたのです。

いまでもガッツの野球帽子を見ると、当時の子供たちの顔やファインプレーなどいろいろなことが頭の中に浮かんできます。

練習グラウンドがなく現在のコミュニティーセンター広場にネットをはり、ボールが道路に出ないように入り、ホームランにより住宅の窓ガラスを割り部長、監督がお詫びと補修に伺う中、内心子供たちの上達に満足していたこと。

町内会の運動会や、夏休み早朝ラジオ体操ではユニホーム姿で活躍したこと。

納会では、家族と共に登別温泉へ、そして風呂で泳いだこと。

遠征大会では、苫小牧、広島でガッツパワーを発揮したこと、そおっ、いつまでも忘れない大きな思い出です。広島へは一線級を揃えて対戦したけれどもかってない大敗、全員が悔し涙で弁当が食べられなかったこと。

苫小牧では選抜チームと対戦、ホームランでサヨナラ負けのときレフト・センター間へ大安打、これを3中継により見事本塁タッチアウト。このとき敵、味方忘れてスタンドから大拍手が起こったこと。（このあと得点勝利はいうまでもありません）等々たくさんのが思い出されます。

「縁の帽子、常勝富丘ガッツ」と新聞の見出しにのり、大会のたびにガッツの強さが他のチームの間に広がって行くことが毎日の苦しい練習の励みとなり、原部長、佐藤監督の指導方針であった意地と根性を養い中学、高校そして成人になっても通用する野球を目指すことが出来たのでしょう。

ガッツ20年の歩みは決して平坦なものではなかったでしょう。今日を機会に先輩たちが歩んできた歴史を知ることも必要なことではないでしょうか。そしてガッツで学ぶものにあっては、30年の歴史の上に立ちそれぞれの出会いを大切にして、常に努力と苦労を惜しまずに活躍され、世界にはばたいてほしいと願うものです。



昭和50年 田中晴美さん女子部員第1号誕生（原監督の後方）



※ 佐々木孝雄君

昭和57年富丘ガッツ卒業、桜ヶ丘高校進学

昭和63年夏の全国高校野球大会苫小牧地区予選優勝

南北海道大会準決勝進出惜敗

“栄光の記録”

年度別大会成績一覧表

大会名	44年～50年	51年	52年	53年	54年	55年	56年
少年団選手権 (春の大会)	2回戦	準決勝	準決勝	優勝	優勝	3回戦	3回戦
全道支部予選 (春の支部大会)		2回戦	2回戦	優勝	2回戦		
町連協 (夏の大会)	準々決勝	優勝	優勝	優勝	優勝	準決勝	準優勝
少年団結成記念 (秋の大会)	2回戦	準決勝	準決勝	優勝	優勝	3回戦	優勝
支部選抜大会 (秋の支部大会)		2回戦	2回戦	2回戦	2回戦		優勝
鉄北高台地区 コミュニティ大会							優勝
ローリングス杯							優勝
ルート36号大会							1回戦
日刊スポーツ旗							
少年選手権千歳 (知事杯)							
市長杯							
千歳デパート杯 兼少年結成記念							
全道交流大会 (厚別大会)							
千歳民報杯							
家族会行事	夏期……浜益、有珠海水浴場、大和ルスツ高原旅行						

・員能業率名著學計力型

57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	元年
優勝	優勝	準優勝	優勝	3位	3位	3位	1回戦
準優勝	3位	準優勝	準優勝	1回戦	3位	1回戦	
3位	3位	3回戦	1回戦				
優勝	優勝	2回戦	3回戦	3回戦	2回戦	3位	1回戦
準優勝	1回戦	1回戦	1回戦	1回戦	1回戦	1回戦	
準優勝	(春)優勝 (秋)優勝	準優勝	3位	優勝	準優勝	優勝	優勝
優勝	少年結成記念 優勝		追分大会 1回戦	郵便局大会 3位			
2回戦	2回戦	1回戦		2回戦	1回戦	1回戦	2回戦
3回戦	2回戦	2回戦	2回戦	4回戦	2回戦	1回戦	3回戦
	優勝 支部1回戦	2回戦	2回戦	3回戦	3位	1回戦	3位
	3位	3回戦	3位	2回戦	1回戦	3回戦	2回戦
	3位	1回戦	3回戦	準優勝	優勝	1回戦	1回戦
	1回戦	1回戦	1回戦	1回戦	1回戦	1回戦	1回戦
			スタルヒン記念 石狩地区大会 1勝1敗			準優勝	2回戦
						恵庭10周年 記念大会 1回戦	恵庭交流 大会 1回戦
冬期……登別、丸駒、洞爺温泉旅行							

歷代指導者・卒業部員・

年 度	44 ~ 50	51	52	53	54	55	56	
指 導 者	部 長	原 照雄	原 照雄	原 照雄	原 照雄	原 照雄	佐藤 末輝	
	監 督	同 上	同 上	同 上	同 上	佐藤 末輝	齊藤 静司	
	コ ー チ		森 満 佐藤 末輝	森 满 佐藤 末輝	森 满 佐藤 末輝	有村 邦祥 小野 桂一 高岡 昌和 広島 和夫 山本 正克	高岡 昌和 川原陸一郎 齊藤 静司 浮穴 国夫	
卒業部員		清水 泰彦 佐々木義仁 小田 誠 桃原 達也 芳賀 佳人 芳賀 雅人 田中 晴美 田中 靖二 吉川 春夫 横内 雅人 金子 郷一 黒田 和彦 今野 弘隆 萩原 義広 田村 博明 田口 吉岡 渡辺 猿田	○葛西 義仁 古山 義春 吉川 数博 木村 秀行 佐藤 信彦 秋元 裕喜 菊地 育英	○太田 政一 阿曾 政人 山口 道徳	○皆上 秀人 葛西 正 有村 竜一 秋元 進 加治佐秀美 山口 博樹 今野 泰広	○村川 韶司 小野 勝久 佐藤 邦勝 下林 亮介 進藤 昭洋 田中 和広 本間 幹夫 山本 尊敬 森口 大介 浮穴 学 三村 徹	山元 正彦 広島 龍也 加治佐優治 ○佐藤 征史 高岡 歩 齊藤 裕司 吉口 敬 本城 英吾	○越智 弘明 河原 豪 西川 和広 竹本 論史 沢口 信彦 真鍋 美紀 中沢 賢司
家 族 会 役 員	会 長					西川 吉治	西川 吉治	
	副 会 長					広島 和夫	木滑 康雄	
	会 計					佐藤 栄子	齊藤かつえ	
	役 員					沢口 好子 西川千恵子 齊藤かつえ 広島 美恵 川原美智子	沢口 好子 西川千恵子 齊藤かつえ 川原美智子 ◎相談役	
						原 照雄 佐藤 栄子		

家族会役員名簿

(○印はキャプテン)

57	58	59	60	61	62	63	平成元
佐藤 末輝	佐藤 末輝	佐藤 末輝	佐藤 末輝	佐藤 末輝	佐藤 末輝	佐藤 末輝	橋本 成章
斎藤 静司	斎藤 静司	斎藤 静司	斎藤 静司	斎藤 静司	斎藤 静司	斎藤 静司	斎藤 静司
浮穴 国夫	小林 和人	佐藤 信憲	佐藤 信憲	小林 和人	中野 俊則	長谷川 勤	中野 俊則
沢口 素	森 満	小林 和人	小林 和人	中野 俊則	長谷川 勤	條原 由安	長谷川 勤
真崎 義行	佐藤 信憲	森 満	中野 俊則	長谷川 勤	條原 由安	中野 俊則	山下 徹
小林 和人		宮本 真弘	長谷川 勤		須崎 隆志	山下 徹	條原 由安
森 満		中野 俊則	真鍋 美紀			渡辺 聰	北浜 国昭
							永野 俊幸
							藤井 和則
○木滑 康裕	○川原 清隆	○小林 英樹	○村上 学	三上 健二	○矢田 義明	前田 穂	彦坂 勇人
沢口 英樹	佐藤 聰	渡辺 裕也	加藤 勇	佐藤 浩	長谷川進也	山下 勝広	近藤 聰
長谷川信也	向山 和広	佐藤 靖昭	中浦 光宏	石原 慎	芳住 康彰	○鈴木 明範	○藤井 敬大
高木 晴康	矢田 俊明	山内 栄治	畠山 弘幸	佐々木正弘	須崎慶太郎	厚田 直木	阿部 亮佑
小清水昭博	今野 勉	長山 真純	石川 直人	條原 由宣	中野 雄太	日野 稔	喜田 敏仁
浮穴 昇	館沢 充明	内藤 幸雄	中野 智之	○兜谷 勇治	泉 正人	吉田 和宏	鉢呂 元宏
島脇 直樹	三村 仁志	田中 浩之	高藤 雅則	三好 大善	松橋 貴雄	喜田 正人	北浜 卓也
小西 裕二	兜谷 孝司	宮本 宜和	恩田 育英	前田 佳忠	嵐 道広		佐藤 和成
佐藤 豊	松井 大輔	藤本 邦寛		井下 隆則	佐々木 貢		
真崎 文聰	内海 哲也			伊藤 昭洋	内城 伸吾		
長沢 利幸	八重樫 学			上山 健一	石川 稔		
木滑 基博				嵐 正紀	佐藤 司		
佐々木孝雄					小清水基継		
木滑 康雄	佐藤 信憲	佐藤 信憲	佐藤 信憲	芳住 力弘	芳住 力弘	彦坂 忠人	彦坂 忠人
長沢 義春	小林 穀	小林 穀	三上 鉄男	三上 鉄男	彦坂 忠人	前多 忠	近藤 忠明
	三村 清	三上 鉄男	恩田 元雄	井下 喬	内城 勝雄	阿部 峰厚	平山 信廣
				泉 見光			阿部 峰厚
佐藤 栄子	佐藤 栄子	佐藤 栄子	矢田 美子	矢田 美子	矢田 美子	鈴木恵美子	阿部 孝子
沢口 紗子	川原美智子	矢田 美子	村上 淳子	中野 弘子	須崎 隆志	前多	6年生母
川原美智子	向山 和子	内藤 良子	中野 弘子	條原智津子	前多 忠	鈴木	全員
木滑 直子	◎相談役	小森久美子	篠原智津子	三好キミ子	條原 由安	吉田	
向山 和子	原 照雄	田中 玲子	三好キミ子	前田恵美子	吉田 明	山下	
◎相談役					長谷川 勤	鳩沢	
原 照雄						喜田	
						厚田	

現 役 選 手



平成元年9月マラソン野球大会（市民球場）

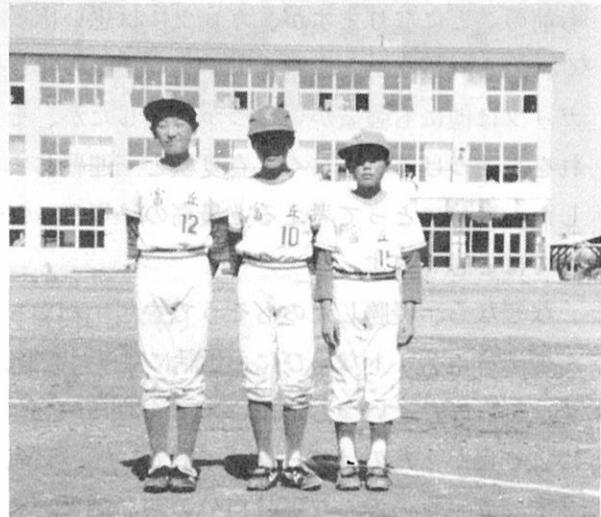


昭和54年夏 有珠海水浴場

キャプテンの思い出

[昭和52年]

毎日が楽しく！ 野球の試合



太田 政一

富丘ガツ創立20周年おめでとうございます。
OBの一人として心からお祝い申し上げます。

私が富丘ガツでお世話になったのは小学4年～6年までの3年間でした。最初は近所の先輩に誘われてしぶしぶ入ったのを憶えています。しかし幸運な事に入った頃から試合に出してもらえたし、6年生の時にはキャプテンもやらせてもらって大変楽しい思い出が残っています。

当時は、練習場も、今コミュニティーセンタが建っている消防署前の空き地でした。ほとん

ど毎日の様に皆が集まり、練習といつてもノックやバッティング練習をするのではなく、紅白試合の毎日でした。しかし小学生ですから“野球の練習”ではなく“野球の試合”をするのが何よりも楽しみでしたからあの練習は大正解だったと思います。子供ながら試合の中から自分達で何かをつかんでいくという感じで人に頼るのではなく、自分の事は自分でやるという心も養えたのではないかと思います。現在の子供達は当時とはくらべものにならない様な高度な練習をしているんでしょうね、きっと……。

現在のグリーンのユニホームは私が5年生の頃に新しくデザインされたものです。現在もあるデザインのユニホームが受けつがれている様で、たまにあのユニホームを着た少年を見ると昔の頃の思い出がほんとうになつかしく思われます。

20年という長い間、富丘ガツが続いてきたのも町内会の役員の方や部長さん、監督さん、父母の方々、色々な方々のバックアップがあってこそ続いたものだと思います。これからも30年、40年と続く様にがんばって下さい。私も何かの機会があれば応援させていただきます。

ほんとうにおめでとうございました。

西川 雄一

（西川 雄一）



[昭和53年]

白球を追って最高の一年

皆 上 秀 人



今、当時の事を思いおこすと……。もう20年も前のことになりますが、ガッツには思い出多く、いろいろなことを覚えています。この年、ガッツは他にも強豪がいくついましたが、それをよせつけることなく、春夏秋と三連覇しました。自分にとって考えると最高の一年だったのではと思います。

なぜなら、優勝したのもそうですが、たくさんのチームメイトならびにお世話になった監督、コーチ、また、いつも応援に来てくれた熱心な

父兄の皆様等、最高に恵まれていたと思います。なにより良かったのはチームメイトでした。練習、試合はもちろんのこと、普段遊ぶのもいつもいっしょで、ガッツのみんなとは自分の親兄弟という時間より顔を合わさるのは長かったような気がします。みんな気心がしれ、和気あいあいと毎日を過ごしました。ですから、今、またこれからガツツでがんばる子供たちにはやはりチームメイトを大事にして欲しいです。試合も大事ですが、仲間にに対する思いやりだけは忘れないで野球を楽しんでもらいたいです。

思い出一つ一つ話してもキリがないので最後にしますが、今はなき当時の練習場にコミュニティーセンターが建っていますが、あそこでガツツが練習しているのを見れないのはちょっと寂しい気がします。

小さい子供たちでもちゃんと野球ができます。無心で白いボールを追う姿はとてもいいものですね。あの頃の素直さを近頃の僕は忘れているようです。この文を書きながら当時のことを思い出しながらひたると同時に、ガツツがこれからもがんばっているかぎり陰ながら応援すると共に、私もガツツの精神でがんばりたいと思います。ガツツよ、いつまでも……。

[昭和54年]

富丘ガツツの益々の御発展を

村 川 卓 司

富丘ガツツ20周年、おめでとうございます。

私がガツツを卒業してからもう11年になります。今のコミュニティーセンターが建つ前のグラウ



[昭和55年]

ガツ、頑張れ！

佐藤 征史



イズをしたり、旅館で寝ないでさわいだりとても楽しい思い出が一杯です。今でもグリーンのユニホームを着たガツの子供達と出逢う時、自分達の頃がなつかしく『ガツ、頑張れよ』と声をかけてやりたくなります。一口に20年と云ってもそれは大変長い記録だと思います。これからもチームワークを大切に思い出をたくさん作って頑張って下さい。最後に部長、監督、コーチそれから家族の方々ありがとうございました。

ンドで練習をしたり、試合をしたり、夏休みの朝のラジオ体操などなつかしく思い出されます。冬は集会所で野球教室、シーズンになれば札幌、苫小牧、広島など各地を転戦し、強い相手チームの胸を借りたおかげで千歳市大会の3大会を連続優勝した事が私の大きな思い出の一つです。監督、コーチの教えや家族の方々の応援があったからこそと感謝しています。今、私は東京で仕事をしていますが、これからも富丘ガツの益々の栄光を東京の空から期待しています。

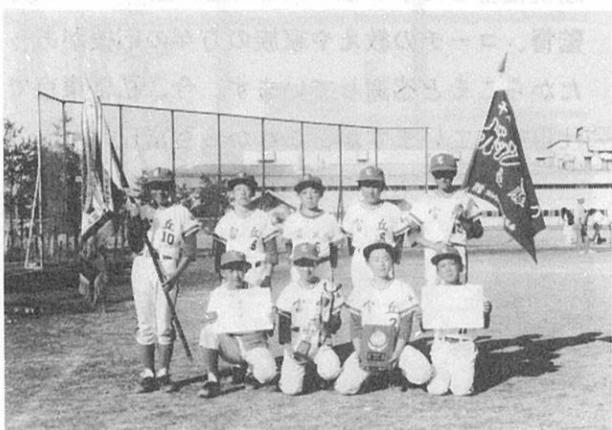
私が富丘ガツに入った頃は、今のコミュニティセンターが建つ前の空地にバックネットがありそこがホームグラウンドで、そこに集まつては紅白試合をしたりノックをしてもらったりしたものでした。やがてコミュニティセンターの建設工事が始まるので末広小グラウンドに移りました。レフト方向には松林があり、そこにボールが飛びこんでよくボールを探したものでした。

夏の海水浴、冬の温泉旅行ではバスの中でク



[昭和56年]

この体験があったから!!



テンをさせてもらいましたが、チームメートのおかげで夏の大会準優勝、秋の大会3市町選抜大会、ローリングス杯大会ともに優勝することができました。私が高校まで野球を続けることができたのもこの体験があったからだと思います。4年間お世話して下さった原、佐藤、斎藤監督、コーチのかたがた、又応援して下さった家族のかたがたありがとうございました。これからもチームの皆さん頑張って長く続けて下さい。応援します。

越智弘明

20周年おめでとうございます。

私がガツに入ったのは小学校3年の時でした。何もわからず、ただガツにあこがれて入ったようです。監督がくる前に友達と3角野球などして遊んだり、チームの旅行のときは寝ないでさわいだりしたことなど楽しく思い出されます。そのうちグランドが末広小に移りパワーズ（3軍）から4年生でサーフイン（2軍）、5年生でガツ（1軍）へとなることができ、そのたびに喜びが一杯でした。6年生のときはキャ

[昭和57年]

2度と出来ない楽しい経験



木滑康裕

ガツは20周年をむかえ、さらにこれからも続していくわけですが、今の野球熱は当時ほど高くないよう思います。サッカーやその他のスポーツの人気が高まってきたからなのでしょうか。その影響か自分の意志かは忘れましたが、私は小学4年のときに入部しました。それまでぜんそくで、ガリガリで超ひ弱少年だったので、野球を続けていくうちに徐々に体力がつき丈夫な体になりました。中学、高校と部活を続けられたのもガツのおかげでしょう。



いちばん強い印象が残っているのは、入部したすぐにユニホームをもらえたことで、その日はそれを着て家の周りや家の中を走り回ったのを覚えています。4・5年のときには試合の度に6年生の人たちは、どうしてみんなうまいのか、自分も6年生になったらああなれるだろうかと不安でした。そして、そういう思いを胸に6年生になると、なぜかうまくもない私がキャプテンになってしまいました。キャプテンといつてもほとんど形式だけで何も貢献はしないで、ただ声出しと試合前のジャンケンなどしか覚えていません。今考えるともっと真面目にキャプテンという役割を考えていればと後悔しています。そんな中でもチームは、他のメンバーが上手でチームワークもよかったです。結構強いチームでした。そのおかげで札幌や苫小牧などへ遠征したりでき、その道中などは学校の遠足に匹敵するかそれ以上に楽しかったです。

そんなことよりもっと楽しい思い出がありました。夏の有珠へのキャンプと冬の登別への旅行です。有珠ではそこのチームと交流試合をしたり、海ではカニ取りや泳いだりしました。そういえば海の家のみぞでんは絶品で今も舌に味が残っているようです。登別ではみんなで温泉につかったり死ぬほどゲームをしたりしました。こんなに楽しい体験は2度とできません。（小学生にはもうなれませんから……）

結局思い出してみると、きびしい練習は楽しい思い出でかき消されてしまうようです。これほど多くのいい体験ができたのは、どなり声が迫力あった原さん、いつも優しく声をかけてくれた佐藤部長、冷静な判断をしてくれた真崎コーチ、若さを生かした指導の小林コーチ、ノックがパワフルだった澤口コーチ、いつもおもしろい事を言って笑わしてくれた浮穴コーチ、そして今もなお現役の斎藤監督などなど多くの首脳陣のみなさんと毎試合応援団となってくれた家族のみなさんのおかげだと思います。一生忘れないガツツでの3年間を支えてくれた、この方々に今さら感謝というのも手遅れですが、当時は言えなかつたので今言いたいと思います。

本当にいろいろとありがとうございました。



〔昭和58年〕

富丘ガツツの5年間

川 原 清 隆



富丘ガツツ20周年記念おめでとうございます。ぼくは、小2の秋に原監督より始めてガツツのユニホームをもらった時の感動は、今でも忘れる事が出来ません。

一口に20年と言いましても驚異的な記録だと思います。自分が生まれる2年前から富丘ガツツは活動していたんです。

ぼくがキャプテンになった時のチームは、小

柄で活気がなく優勝できるかと心配しましたが、先輩方のチームワークの良さを受けついでとても良く頑張った記憶があります。ガツでは、相手チームの作戦を読むとか、ボールを取ってからの送球方法とか又、他には人間として年上の人に対しての言葉使いや、試合に勝った時の喜び、物に対しての感謝の気持、友達との接し方など野球技術の練習ばかりでなく大きな声を出していたりしていたので人見知りをしなく、中学校へ上っても友達の層が厚くなり楽しい中学校生活を過ごすことが出来ました。

小学校の時野球チームに入らず、なにもしないで遊んでばかりいたら今の様に野球の面白さや、楽しさがわからなかつたと思います。

それから、やっぱり、一番楽しかった思い出は、夏の海水浴、冬の一泊旅行でした。

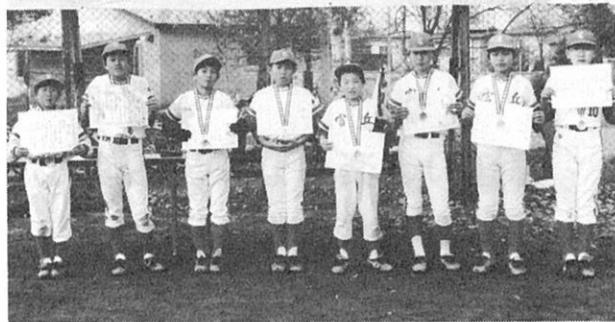
現在のガツの皆さん、これからも、自分達の手で仲の良いチームワークと良い思い出をたくさん作って、何年たっても富丘ガツの誰々と言われた時に誇りを持てるように頑張って下さい。

[昭和59年]

富丘ガツの一員として

小林英樹

第5回鉄北高台地区少年野球



第5回鉄北高台地区少年野球

僕が“野球の白いボール”を持ち始めたのは小学校に入学する前、確か4・5歳だったと思う。当初、父に無理矢理グローブをはかされ、ろくにボールも取れなかった僕は、こんなもの

手が痛いだけでおもしろくもなんともないと泣きながらキャッチボールをしていたが、そのうちに“野球”というものにとりつかれたようになり、近所の友達が幼稚園に行っている間、毎日家の隣にボールをぶっつけて遊んでいたのを憶えている。そして、「どうしてもガツ

ツに入りたい」という思いがやまず、念願かなつて小学3年のときから以後4年間お世話になった。

入ってからは、僕にとって普段の練習は楽しくてしょうがなかった。「うまくなりたい」とばかり考えて、練習開始の1時間近く前からグラウンドを行っていたような気がする。また、部長、監督、コーチに褒められたくて一生懸命だったのも憶えている。

4年間を通じてたくさんの試合に出させてもらい、先輩方が数々の大会で優勝する姿を見るたびに、「僕達もあんな風に上手くなつて強いチームにならなきゃ」と考えていた。

いよいよ6年生となり、名ばかりのキャプテンを努めたが、この一年は苦しいことばかりだったような気がする。試合をやればすぐ負けてしまうし、大会に出れば、初戦で負けたりで、悔しい思いばかりだった。そんななかで一番こえたのは、負け試合後の練習で、監督に「6年生は端のグラウ

ンドで勝手に練習してろ」と言われた時だった。最初と最後にグラウンドを10周走り、キャッチボール、バント、トスバッティングなどを念入りに休む暇もなくやり、何とか監督にわかってもらおうと、みんなで話し合ったりもした。また家では、負けた試合について父に色々言われ、悔しくて風呂場で泣いたこともあった。結局僕達は、一度も優勝することができず、長い間の“富丘ガツ”の伝統を途絶えさせてしまった。中学になってこのことについてある先輩からちょっとではあるが色々と言われたことがあったので、今回この文章を書くにあたって、監督から「歴代キャプテンに文章をたのんでいる」と言われたとき、真っ先にこのことが頭に浮かんだ。

今、僕は野球を続けてはいないが、富丘ガツで経験したことは、色々な事でためになっているし、絶対に忘れないことだと思う。ただ、ただ一度でいいから優勝旗を握ってみたかったな……。

[昭和60年]

監督、コーチの皆さんありがとう

村 上 学



富丘ガツに入っていて約4年間、小学校生活を無駄なくすごせた。また、たくさんの思い出もできた。その中でも春の大会で優勝した時のうれしさ、支部大会で準優勝した時のくやしさは、ぼくたちの時のチームのメンバーはみんな覚えていると思う。その時のチームは特別に上手い人もいなく、チームワークだけを武器に一試合一試合をやっていた。このチームで優勝・準優勝はすばらしい成績だと思う。

ぼく一人の思い出としては、最初は楽しくやっていた試合が6年生の後半には試合に出たくない気持ちがあった。それは準優勝した時に1対0で負けた相手と試合をすることになり、みんなは今度こそ勝とうとガンバリ試合に挑んだ。しかし、その試合は5対0で負けてしまった。負けた原因はぼくのせいだとはっきりわかった。エラーを3つ4つてしまい守備位置をかえられた。最初のエラーから気をつけていたが、ボールが段々恐くなり、どうしてもボールがとれなかった。キャプテンの資格など自分でもないと思った。追分であった試合でも成績が悪く監督にも「千歳に戻ったらそのユニホームを返せ」と言われたくらいだ。この思い出は隅から隅まで覚えている気がする。それでも今はいい思い出です。

そして、最後までみんなと楽しくやってこれたのも、野球の面白さを教えてくれたのも、監督、コーチそして富丘ガツのおかげです。

たくさんの思い出をありがとうございました。

[昭和61年]

「ガツ」は素晴らしいチーム

兜 谷 勇 治



ぼくは、小学校2年生の秋に富丘ガツに入り、6年生までつづけていました。入った当時は、なにをしたらよいかなどもとまどいましたが、はじめは、ボールひろいや道具の整頓からはじまり、そうやっているうちにすこしづつ練習をやり、それなりに毎日の練習内容などがだんだんわかつてきました。学年が上がり、3年生になってからはユニホームをもらい、3軍に上がり、毎日の練習が、いちだんときびしいものでした。しかし、そのきびしさの中にも、

野球をつづけていく楽しさも、深い思い出となっています。そうしていくうちに、3軍から2軍へと上がることができました。この2軍ではやはり3軍にいたときよりも、はるかにつらいものがあり、とてもたいへんな毎日がつづきました。このころは、上級生たちとの合同練習もときどきあり、いろいろと勉強させられることもありました。いま考えてみると、とてもよい思い出となっています。

5年生になり、1軍に上がることができました。試合や練習などでも、数々の練習で失敗もしましたが、それを、次のときには絶対に失敗をしないようにしていきました。6年生に上がり、ぼくはキャプテンになりましたが、ぼくがキャプテンということが、チームの中心となっていくということに、はかりしれない責任を感じました。ぼくが、キャプテンとなってから一番のくやしさは、決勝戦でのコールド負けでした。それは、とてもくやしさのあまり、なみだもながしました。あと、日刊スポーツ杯での1回戦・2回戦は、順調に勝っていたのですが、3回戦では、ぼくのサインミスや、ひじがいたくなるといいいろいろなことがおこり、この試合は、コールド負けでした。地元に帰り、あまりにもひじがいたいので、外科にいってみると「野球ひじ」というケガで、医者に野球をやめろといわれたときは、とてもがっくりして野球をほんとうにやめようと思いました。けど、監督やチームのみんなに「やめるな」といわれ、ぼくのすきな野球をやめずにすみました。

こんな素晴らしい監督やチームメイトの中で4年間野球をつづけてきたのは、とてもいい経験となりました。ガツは素晴らしいチームです。これからもがんばって下さい。



[昭和62年]

[卒業記念]

富丘ガツで学んだ、悔しさ、悲しみ、そして喜び

篠 田 木 館

矢 田 義 明



僕は小学2年の春にガツに入部した。入ったきっかけは、そのころ兄が入っていて練習しており、自分もなんとなくやってみたくなり入部した。入部したころはまだ僕は小さかったので、すわって見ているか、球拾いなどをしていた。ふつうみんなは球拾いはいやがるけど、なぜかそのころの僕にとってはとてもおもしろくて、いつも楽しみながらしていたと思う。今考えてみればおかしいことと思うけど、これが今、こんなに成長して野球ということにがんばっているんだと思う。

3年、4年となり、球拾いだけじゃなく打ったり守ったりと練習もきびしくなり、コーチや監督の見る目がきびしくなった。試合も2軍でこそしだけ出させてもらった。試合ではヒットを打てたり、守ってはたまにエラーもしていた。今考えてみればまだ4年なのに試合に出してもらいとてもいい経験であったなあと思う。それから僕はすこし野球の見る目がかわってきたと思う、今まで遊びのように感じていたが、試合に出てコーチにおこられてはじめてわかった今は思う。

5年生になり僕は1軍にえらばれた。とてもうれしかった。しかし、僕の考えていた1軍と全くちがった。球のスピード、足の速さ、連携プレーなどがとてもすごかった。しかし、ぼくら5年生に対してあまりはなかった。今考えるとこの5年生いや学年がまずいと僕は思う。何年生だからってあまりとか考えていてはいけないと思う。1軍は1軍なのだから学年は関係なくという気持ちでやっていたら今は思う。試合にもけっこうでて、エラーやミスをしておこられたりして、負けるくやしさ、悲しみを感じた。でも負けてばかりではなく、勝つよろこびも感じるようになってきた。今でもおぼえているのは日刊スポーツの大会で何度か試合にてて、ヒットやセカンドを守っている時にファインプレーしたことなど5年生のことはこれぐらいである。

6年生では、今度は僕たちの出番で僕がキャプテンでピッチャーで2番であった。キャプテンはとても難しく、最初はまとめるのにこまった。キャプテンだけではないピッチャーもたいへんで、なかなかストライクがはいらずこまつたこともあった。試合では僕がストライクがはいらず負けてしまったこともあった。とてもくやしかった。その他でもいろんな所で涙を流していたと思う。でも一度だけうれしかったことがある。優勝です。この優勝はとてもうれしく一度も忘れたことはありません。もう一つはノーヒットノーランをしそこねたことです。一本のヒットで……。

最後にガツにいて僕はこんなことを学んだ。悔しさ、悲しみ、そして喜び。この三つです。僕はいつまでもガツにいたことは忘れることはないです。ガツは不滅です。

[昭和63年]

[第28回記念

ガッツの思い出

田 義 関

鈴木 明範



僕は小さいころから野球が好きで3年になるのをまってガッツに入れてもらいました。当時のガッツは強くて先輩たちがいい成績を残していました。それをみて僕は早くレギュラーになって試合に出たいと思いました。やっと6年生になり、ピッチャーのポジションをもらって試合に出れるようになりました。そして、何回も試合に出ましたがその中でも千歳民報杯の準決勝、決勝は特に思い出に残っています。

この大会が始まったころはまだ発展途上のチームで楽に勝ったのではなく接戦でやっと勝ったゲームばかりでした。一つ一つ勝つうちにチームも強くなり準々決勝ぐらいになると、ここまで来たから優勝したいと思いました。

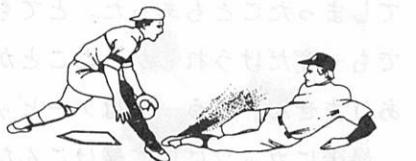
当日は午前中に準決勝を、そして勝ったら午後から決勝戦でした。準決勝の相手は信濃タイガースでした。このチームとは、練習試合をして負けていました。今日こそ勝って決勝へ行きたいと思いました。

試合の方は、点数をとるとおいつかれ、また逆転するとおいつかれるという一進一退のゲームで7回を終わって6対6の延長戦になりました。延長戦のルールは一死満塁から始まるのでヒットや四球も出せないし、肩も重くなつてとても苦しかったです。そして最後に味方がたくさん点をとつてなんとか決勝に残ることができました。その時、僕はこのままの勢いで決勝も勝ちたいと思いました。

しかし、決勝戦が始まつたら前の試合のつかれと緊張でストライクが入らなかつたり細かいミスをしてどんどん自分を不利にしていきました。それに対して相手の投手4回まで調子がよかつたようで点が入りませんでした。5回ごろから追いかげましたが間にあわず4対2で負けてしまいました。

負けてくやしかつたけど精一杯やつたのでくいはありませんでした。

これからもガッツでの経験を生かしてがんばつていきたいです。



[平成元年]

チームワークは最高

藤井 敬大



「ガッツ」に入っての2年間で一番の思い出は、昭和60年の市民生協杯大会の第1試合で、札幌円山球場のマウンドにたてたことです。

6年生になってキャプテンになり、いろいろなことを学びました。今年の成績は3位が1回、準優勝が1回、優勝1回（鉄北）でした。どの試合もチームワークが良くみんながんばりました。

監督、コーチのみなさん今までありがとうございました。中学に行ってもがんばります。

家族会の思い出

近藤 千代美

富丘ガッツ20周年心からお祝い申し上げます。

子供の手を引いて練習場でもある末広小学校のグラウンドにお願いに行ったのがついこの間のように思いますのに、早3年が来ようとしています。心をめぐらせば、数々の想い出で胸が一杯になります。

子供達と共に楽しみ、共に悔し涙にむせんだことも今と成ってはほんとうに良き想い出と成りました。昼食も食べず、試合の延長でどっぷりと太陽の沈んだ草原で蚊に刺され乍ら食べたおにぎりのお美味しかったこと。数々の大会では満面に笑をたたえ、自信たっぷりにプラカードを持って胸を張り乍らの入場行進。昨年は梅沢市長さん、議員さん方と“はまなす国体”を記念しての試合。あの目にしみ入る青い芝生でホームランを放った快い快音。父兄とやった最後の試合では、親が本気に成り転げて笑った楽しい一日。美しい雪景色を見乍ら貸し切りバスで行った洞爺への温泉旅行等々……。たくさんの想い出を作つて下さいました陰には、斎藤監督、コーチの皆様方のほんとうに暖かい御指導あってこそ……、練習に練習を重ね……ただただ感謝で一杯でございます。

子供達も親が到底教えることの出来ない数々のことを野球を通して学びとったことでしょう。

この間、心ばかりの“6年生を送る会”を終えましたが、一人一人に心のこもった手作りのアルバムを受け取る時のたくましく成長した後姿を見た時に母親として子供といっしょに野球にあけ暮れた日々が心の中の美しいアルバムとして残すことが出来ました。丁度今年が富丘ガッツ20周年に当たることを幸わせに思います。

富丘ガッツの輪がたくましく、一輪にも二輪にも大きく成りますことを念じつつ、お祝いの言葉とさせていただきます。

少年野球チーム「富丘ガツ」

創立 20 周年 協賛商社

社名	代表者	住所	電話番号
アトム富丘店	須崎 隆志	千歳市富丘2丁目16-4	23-5225
お多福	藪下 幸	" 富丘2丁目18-8	24-4339
うめざわ理容院	梅沢 弘治	" 富丘3丁目6-3	26-0216
富丘歯科	佐竹 英樹	" 富丘2丁目18-7	23-0636
リカーショップさど屋	榎原 英二	" 富丘2丁目24-2	24-4074
こにし小児科医院	小西 藤平	" 高台4丁目2-4	23-1195
とみおか美容室	山田 政子	" 富丘2丁目11-7	23-5250
江平理容院	江平 孝男	" 富丘2丁目11-7	24-3587
Stop in カワニシ	川西 憲一	" 花園7丁目3-19	23-3893
鎌田秀雄		" 富丘1丁目28-2	23-9090
(株)山宗大井商店	大井 綱雄	" 富丘1丁目28-6	23-5337
木谷商店	木谷喜三男	" 富丘2丁目11-7	23-5948
理容とみおか	渡部 光一	" 富丘1丁目28-7	23-1388
ヘアーサロンこじま	小嶋 雄三	" 富丘1丁目29-3	22-3771
チャームサロンすずき	鈴木 幸子	" 富丘1丁目28-4	26-0682
尾島歯科医院	尾島 勇	" 富丘4丁目5-22	22-6648
フレッシュスーパーとみおか		" 富丘2丁目	23-4965
朝日新聞千歳北部専売所	三宅 正信	" 富丘1丁目29	23-3924
まなべクリーニング店	真鍋 幸雄	" 富丘2丁目11-7	23-5980
けいあい		" 富丘1丁目	23-3997
勝龍	藤井 弘勝	" 北光1丁目2-11	24-8934
玉根商店	玉根 健一	" 富丘2丁目2-7	24-8643
なんばサイクル	難波 昭吉	" 富丘4丁目1-5	23-2721
太陽湯	金子 光弘	" 富丘2丁目11-7	23-4445
味処気楽	高久 秀市	" 富丘2丁目11-7	26-1636

社名	代表者	住所	電話番号
千歳スポーツ	喜多 清皓	千歳市清水町4丁目17	26-1004
龍乃屋	佐藤 龍崇	" 富丘4丁目1-22	24-9808
(株)常光建設	力示 義男	" 高台2丁目1-16	23-3918
セブンイレブン高台店	蔵谷 博	" 高台2丁目6-20	26-2411
(株)フジプラ	藤本 敏広	" 高台4丁目4-17	23-9796
(株)長崎工業	長崎 清光	" 富丘1丁目29-7	24-4161
千歳民報社	谷沢 康郎	" 北斗2丁目10-15	23-4211
ユナイテッドケミカルプロダクツ(株)	山本 直弘		045-252-2840
(株)高橋管機工業		" 本町2丁目6	23-2419
(株)佐藤建設工業	佐藤 嘉彦	" 新富2丁目19	24-2846
司法書士 佐藤事務所	佐藤 秀雄	" 幸町4丁目18	23-0374
(株)神出設計事務所	神出 学	" 富丘2丁目11-7	23-4879
ウエディングプラザ 平安閣	山田三重子	" 錦町4丁目9	26-1163
神谷 医院	神谷 紗子	" 花園5丁目1-2	23-3395
シャディギフトショップわたなべ		" 富丘2丁目24	27-1600
(株)アドバン	藤田 美樹	" 千代田町4丁目8	24-2600
千歳農協ホクレン千歳給油所		" 高台5丁目7-1	22-8151
Aコープ(千歳、祝梅、自由ヶ丘)		" 高台5丁目7-13	23-5154
今野工業	今野 訓	" 富丘3丁目20-12	23-4781

御芳志者

	在任期間	氏名	住所
第1代家族会会長	S55~S56	西川 吉治	千歳市富丘3丁目18-11
第2代家族会会長	S57	木滑 康雄	" 富丘3丁目6-16
第3代家族会会長	S58~S60	佐藤 信憲	" 富丘3丁目18-5
第4代家族会会長	S61~S62	芳住 力弘	" 富丘2丁目18-11
第5代家族会会長	S63~	彦坂 忠人	" 富丘3丁目16-14

編集後記

昭和41年富丘団地町内会が70戸から発足し、年々飛躍的な人口が伴い昭和44年いち早く青少年育成を重視して富丘少年野球部が創設して以来“苦節20年”よき指導者、よき部員、よき支援者のもと20周年を迎えるこの節目として記念誌発行の運びとなりました。

発刊にあたり御多忙中、快く原稿資料等をお寄せ下さいました各位に対し心から厚く御礼申し上げます。短期間の編集のため不備ご指摘等があるかと存じますが御容赦下さい。

今後共富丘少年野球部とこれを支える家族会の益々の御活躍・御発展と更に皆様方の御指導御支援を賜ります様願って編集後記とします。

編集委員一同

表紙デザイン 山内幸子

少年野球富丘ガツツ20周年記念誌

発行年月日 平成2年3月10日
発 行 記念事業実行委員会
編 集 20周年記念誌編集委員
印 刷 千歳印刷株式会社